

会議録 ・ 会議要旨

会 議 名	甲州市行政改革推進委員会（第2回）
議 題	第一次甲州市行政改革大綱・実施計画の推進について
開会日時	平成19年11月7日（水）午後1時30分～3時30分
開会場所	甲州市役所本庁舎 第1会議室
出席者名	◎吾妻委員、中村委員、黒川委員、石田委員、三井委員、山本委員、三森委員、 事務局 橋爪総合政策課長、古屋課長補佐、中村副主幹
議 事	
<p>○ 開会の言葉</p> <p>○ 会長あいさつ</p> <p>【議事】</p> <p>○ 会長 前回の意見に対する説明を。</p> <p>○ 事務局（成果に対する意見への対応内容等を説明する。）</p> <p>○ 会長 委員から意見をいただきたい。</p> <p>○ 委員 15名の委員が限られた時間の中で意見を述べて、少しでも市政が向上していくことができればと思いながら発言させていただいてきた。任期最後の会議であると思うので、それなりの発言もさせていただく。前回、指摘した事項について、配布された資料からは「こうすべきであった、間違っていた、説明不足であった」という謙虚な気持ちを感じられず残念に感じている。計画で着手できないものについては、なぜ着手できなかったのかを精査する必要がある、事務局でも、「未着手の理由と問題点を含めて説明する必要がある」と述べている。しかし、未着手の理由は明確に示されてはいないと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員数については12名を10名にしたということであるが、間違いであれば「変更」ではなく、「訂正」であると思う。 ・「縮減」と「削減」等の表現、使い方については気をつけてほしい。 ・国政選挙の期日前投票制については、合併後は実施していないと思うが「これまでの」という表現は適当か疑問である。投票率を上げることも必要であると思うが、入場券の裏に投票場所名も書いてなかった。大和地域の人も塩山投票所で投票できることを書くことが、期日前制度を有効性あるものにしていくことだと思う。今後、対応を考えてほしい。 ・し尿処理方法の改善であるが、当初の計画では「します」であったものが「検討」となった。なぜ、当初「します」という表現になったのか、その理由がわからない。中身について十分検討してから文書にしてほしいと感じた。 ・「副市長のあり方の検討」についての実施事項は、「定数条例を制定し、副市長を採用したとある」。このことが特別職のあり方の検討の実績といえるのか疑問である。 ・収入役の廃止については、「地方自治法で4月1日から廃止になったので文面から 	

削除した」とのことであるが、計画書を作る段階で記載すべきではなかったと思う。

- ・質問に対して回答がない。合併により旧来の制度や取り組みが変わったが、変更項目を一覧にしておくことと次の合併に向けて活用できると話した。事例として議会広報は塩山、大和では発行していなかったが勝沼で発行しており、甲州市において発行することとした。また、社会福祉協議会費は塩山1,000円、勝沼1,500円、大和1,000円であったが、甲州市では1,000円とした等の一覧表が必要だという話をした。回答は「定期的に制度を説明した冊子を配布したい」ということである。制度の違いを整理する取り組みを実施してほしい。
 - ・広報については、市民の立場での広報づくりをしてほしい。昨年、インフルエンザの助成記事に併せて高齢者への助成も書いてほしいと要望したが、今年10月号の広報でも記載されていなかった。全体に目配りしてほしいと思う。
 - ・消耗品の一括購入であるが、「小売額と定価」の違いがわからない。コピー用紙は引き続き購入とあるが、以前から実施していたのであれば、行政改革の対象にはならないと思う。さらなる対応が必要だと思う。
 - ・公用車の管理体制については、変更できなかった理由を市民に説明すべきであろう。
 - ・下水道料金の見直しで、広報には松里地区が処理区域に入るので条例が改正されたと記載されていたが、このことと関連がないのであれば、広報の記載が間違っていたのではないか。記事を訂正する姿勢も必要だと思う。
 - ・口座振替の領収書の送付については、計画書には「年数回にわけて送付することも課題」とある。一括送付を現状のまま進めていくのか、見直すのかがわからない。
 - ・事務局では、実行できなかった場合は、理由と問題点を含めて説明する必要があると述べているので、18年度分についても説明がほしかったと思う。19年度以降はこうした姿勢で実施してほしい。
 - ・市長への手紙であるが、「原則として、回答を希望したものには回答している」とのことだが、手紙をもらった人には全員に返事を出すという姿勢がほしい。市長への手紙を書いた人の意をくむことが大事だ。書いた人は市長に読んでもらいたいのではないか。すべての手紙を市長に見せるべきだと思う。市長には「こんなことを感じている人がいる」と感じていただけるだけでもいいと思う。
- 事務局 指摘事項を整理して、行革推進本部に報告し、各課で検討し対応していきたい。市民サービスを向上させるための行政改革であり、この視点は行政改革の委員も職員も同じであると思う。
- 委員 日常、市政に対する市民の声をどう受けとめるのか。各委員会で委員が意見を言う場も必要であるが、町にころがっている意見を真摯に受け止めることが大事だと思う。わたしが委員に公募した際、市政サポーターを作ること、自治区ごとに市政に対する意見を聴く会の開催を提案した。市民の中には賛成・反対の意見があると思うが、意見を聞く機会をもつことが全体を発展させる方法だと思っている。

行政改革は、スクラップをするものだけではなく、新しい施策を考えることも大事だと思う。新庁舎は市民にとっては大きな問題であると思うが、何ら意見を言う場もなく議会で決定したという経過である。ごみ処理を他の市で行わねばならないことは問題であろう。甲州市の中で完結することを模索する、市で嫌うものをどこかに持っていくかの検討ではなく、市の中で処理することを考えていくことも必要ではないか。そうしたことがどういう状況なのか知らされていない。自分たちで出すゴミは自分たちで処分するといった精神をすべてにつなげていただきたい。道路についても、計画が決まってから地域に話をするのではなく、事前に話をする必要があるのではないか。ぜひ、日常の会話の中で解決する努力をしてほしい。甲州市も少子化、高齢化といわれているが、これを解決する案は国をはじめどこからも出てこない。そのような大きな問題に取り組んでいく姿勢も必要だと思う。行財政改革の意味は、いままでの経験や仕組みを壊すことだと思っている。市役所の中にある経験やなれや仕組みを守らなければならないと思っていたら改革はできない。鉛筆を節約することでいえば、これまで捨てていたものを最後まで使うように見直すということだと思う。そうしたことから対処していただきたい。以前、あいさつのお話をしたが、今日は受付であいさつをしてくれた。すべての職員にそうした対応をしてほしい。知っている人だけにあいさつをするのではなく、知らない人にもあいさつすることが大事だ。精神的な部分で成功すれば改革は成し遂げられると思う。早く今までの「なれ、経験、仕組み」を見直して、甲州市としての新しいスタイルを創ってほしい。議会だけで決めていく市政ではなく、市民自身が市政に対し声を出していくことが大事だ。また市役所からは「こういうことをしていきましょう」という提案を市民に向けて発しなれば改革はできないと思っている。職員がそうした思いを持って臨めば改革を成し遂げることができると思う。また、推進委員会の会議の性格や審議の方向性を当初に決めてほしいと感じた。来年度は、会議がスムーズに運ぶ仕組みを検討してほしい。

- 委員 行革に取り組んだ成果として財政効果額が示されているが、中には「果たして、これで住民サービスが保てるのか」と感じる部分もある。はじめから「節減ありき」ではないかと心配がある。職員にはイベント等の休日出勤で振替休日を与えていると思う。そうすると平日出勤が減ることとなり、これが市民サービスの低下にならないのか心配だ。放課後児童クラブの利用者負担の見直しでは、家庭の負担も増加していると思う。サービスが低下してはいけないものまで含めて、節減をしていくことがあったとするならば、その部分は再度検討する必要があると思う。更に効果をあげることが必要だと思うが、実際にサービスの質が低下してはならない。慎重な対応が必要だと思う。
- 委員 市役所でどのような改革に取り組んでいるのか、知らない市民が多いと思う。市が歩んでいく方向性などをいかに市民に知らせるかが課題であり、改革を実施するうえでは、地域の人に協力してもらわなければ出来ないことも多いだろう。水道事業については、琴川ダムが共用開始となると水道料も上がると思う。10年も前からわかっていることであれば、それなりの対応、準備ができたのではないかと

早めの対応が必要だ。少子化対策も重要である。甲州市で産科が無くなり不安がある。削減するだけではなく、メリハリを付けた行政運営を進めてほしい。

- 委員 民間企業と比較するとあまりにも取組事項に差がありすぎると思う。「まだ、こんなことをしているのか」と感じる部分が多い。民間では、さらに合理化を進め、スピード化するだろう。毎日の仕事の中で、職員は常に意識改革をしていく必要を感じる。職員を減らすためには、職員が行っていたことを極力機械化し、その余剰人員で市民サービスを支えることを考える必要がある。「人が減ったから人件費が減った」だけではいけない。5年間の計画期間は長いと思う。3年で進めるようスピーディな対応が必要であろう。18年度の達成は29%とあるが、後、何年間で100%になるのか。もっとスピードを上げて「5年計画であるが3年で達成する」ように取り組み、やるべきこと常に追加するようにしなければマンネリ化していくと思う。スピーディに改革を実施し、さらに改革事項を追加するように取り組んでほしい。
- 委員 2年間の委員会での議論は自分自身にとっても勉強になった。地方は厳しい状況にあるが、その中においても公務員は優遇されており官民格差を感じる。少子高齢化で産科がなくなることに対する対応策を考え解決に向けて取り組んでほしい。
- 委員 市長のあいさつ文の中に、「旧来の施行や手法を越えた視点と手段をもって行政改革を推進し、達成することが大切」とある。そのとおりであると思う。間違っても旧来の施行や手法を越えた視点と手段が「市役所に都合のいいこと」であってはいけない。市民の視点で甲州市政を推進するための、「旧来の施行や手法を越えた視点と手段」であると思っている。このことを職員に伝えたい。行革の中でも市民との協働というテーマがある。これは市政が市民といっしょに歩んでいこうということだと思う。それには市民の顔を見る施策が必要だと思う。情報公開面では十分とはいえない。行革の内容として委員会に資料提供されたものが、どれだけ市民に知らされているのか。少なくともインターネットを使えば知ってもらうこともできる。総合計画の委員会、地域協議会等、市民の声を聞く会議の様子を、その席に出席しない人にもわかることが必要だ。水道料金が上がるという噂も聞いたが、審議の内容がまったく見えない。議会では、「審議会で市民の意見を聞いた」と話すと思うが、事前に市民の方を向いて意見を聞く、指名された委員からでなく市民からも意見を聞くことが必要だ。そのためには行政のもつ情報を提供しておく、そういう姿勢が必要だと思う。情報公開によって、市政と市民の一体化が生まれてくると思う。職員は肩書きのある人の意見しかきいていないのかと思ったことがある。市役所に相談に行ったことがあるが、地域のことであるから地区の区長に来るようにと職員から言われた。区長でなければ話が聞けないのか、いつからそのような体質になったのかと話した。職員は市民全体の顔を見てほしいし、声をきいてほしい。縦割り行政が強いと感じている。農道と市道であるが、市民はどちらも道路であると感じている。市民の立場で考えると農道であろうと市道であろうと、市民が訪ねた担当で内容を聞いて、内部調整はその後にしてほしい。縦割りで考えては

いけないと思う。接遇であるが、マニュアル作成は「当たり前ことができているから」という声が市民の中にある」と新聞に書いてあった。マニュアルの中には「電話に出たら名前を名乗りましょう」とあるが、10回電話をしてそういう対応をしている職員は1人いるかどうかである。自分たちが決めたことは実行してほしい。市民との協働に向かい努力する姿勢が必要だ。これまでの思考や手段を超えた視点を持つ、経験や慣れや仕組みを壊していくためには、課長が中心になることが必要だ。意識改革は難しいことであると思うが、課長が自分から変わって若い人を引っ張ることができるのがポイントであると思う。これをしないと行政改革を成し遂げることは出来ないと思う。

- 事務局 各委員の意見を生かし行動していかなければならないと感じている。市民の声を聞くことが必要であり、多くの人の意見を聞いて行動することが大事だと感じている。行政の運営方法については、財政厳しい中で、危機意識をもって効率的で効果的な運営を考えていくことは当然であるが、財政的な減額だけでなく、市民サービスがマイナスにならないように、智慧を出していくことが大切だと思う。行政改革が市民サービスの向上につながることを念頭に取組んで生きたい。本計画は5年であるが、毎年見直しをしていきたいと思う。そうした意識で進めていきたい。
- 会長 台風で小さな災害が発生しているが、行政は予算がなくなかなか動いてくれない。こうしたことが行政に対する不安につながると思う。行革が進むことも大事であるが、視線を市民に向けてもらわなければ市民は不安になると思う。迅速な対応をしてほしい。市民の意見が市政に反映できるよう、一層の取組を望む。これで会議を終了する。